



# まなびやまと



No.21

平成24年(2012年)3月  
大和市教育委員会

## 読書活動の取り組み

～文部科学省表彰～  
大和市立桜丘小学校

桜丘小学校はこれまでの取り組みが評価され、「平成23年度子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けました。

桜丘小学校では、「いつでも誰でも使える図書館」を目指し、教諭と学校図書館司書が連携して取り組んでいます。

学校図書館司書の配置や図書館のリニューアルによる環境面の整備と、地域の方が低学年の児童にお話をする「お話の会」や保護者による「読み聞かせ」、ブックトークなど学年に合わせ、本に親しむ取り組みがされています。



図書委員会の活動も活発で、お薦め図書で紹介や図書クイズ、読書感想文の

紹介などを行っています。

図書室からの情報発信も工夫し、低中高等学校別・保護者向け・教職員向け等、数種類の図書便りを発行しています。読書週間には手作りのしおりを作成・配布をすることで読書活動を啓発しました。

児童の読書に対する意識は高まってきており、図書室を利用する児童の数も増えてきています。

## 中学校に学校図書館

### 司書がやってきました

大和市立光丘中学校

光丘中学校では、学校図書館司書の配置により、図書室を利用する生徒の様子が変わってきました。大和市では、学校図書館活動の推進のため、9月より全中学校9校に学校図書館司書を配置しています。

開館時間は、1日5時間で、生

徒の利用は昼休みと放課後が中心です。昼休みには、多くの生徒が訪れ、目的の本を探したり、ゆっくりと本を読んだりしています。学校図書館司書の配置により、放課後も利用ができるようになり便利になりました。

学校図書館司書の仕事のひとつとして、蔵書の点検・管理があります。蔵書のデータを作成・整理し、カード式の目録を作成します。これらの作業は、本を貸し出ししたり、新しく本を購入したりする際に必要となります。

図書室を訪れた生徒との関わりも大切な仕事です。読書に関する相談や話題の本についての話、図書室の使い方について答えます。



図書室でのルールやマナーを教えることもあり、守れない生徒がいるときには注意をします。



その他に、本の紹介をするコーナーを作ったり、配架の工夫をしたり、掲示物をたくさん作成したりして、生徒には大変好評です。お知らせのプリントは随時発行しています。

図書担当の岡先生は、「司書さんが来てくれて変わったことは、本に親しむ生徒が増えたことと、生徒のマナーがよくなったことです。お知らせを作ってくださいるので、細かいことまできちんと伝えるようになりました」と話してくれました。

学校図書館司書の坂本さんは、これからの抱負として、「先生方にもっと授業で活用してもらえようようにしていきたい」と話していました。



## 自然の中で 絆づくり

大和市立大野原小学校

大野原小学校では、11月18日（金）に「チャレンジ泉の森」を行いました。

「チャレンジ泉の森」とは、1年生から6年生までの異年齢交流の児童会行事で、10年以上続く伝統ある行事です。6年と1年、5年と2年、4年と3年がペアとなり、グループをつくり活動を行います。6月からは月に1回、ペアの学年同士で遊ぶ時間を設けています。

「チャレンジ泉の森」は10月中旬から準備をはじめます。児童会が中心となり、リーダー会議を行い、そこで目標やきまり、活動内容などを決めます。その後グループ会議を行い、決まったことを伝えたり、チェックポイントを回る順番を決めたりします。当日は、グループごとに活



動します。ただ楽しむだけでなく、責任感をそれぞれ持ちながら上級生が、下級生をリードしてゲームに挑戦します。

活動の内容は、10箇所あるゲームポイントごとに、出された指令をクリアすると、そのゲーム担当の先生から文字シールをもらえます。10箇所全て集め、指定された番号順に並べるとキーワードが現れる、というものです。



ゲームの指令は「石を拾って、つみあげよう。7こつめたらクリア」、**「万歩計を履きつけて、その場でかけ足などをして、グループ全員の合計を千歩以上にしよう」**など、全員の協力が大切なポイントとなるゲームが考えられています。各ゲームポイントでは、どのグループも楽しくチャレンジしていて、クリアできて歓声をあげ喜んでいる姿が見られました。

6年生に感想を聞くと、「一番楽しいことは、1年生とふれ

あえることです」「1年生がどこかへいっちゃんのが大変」「魔法のじゅうたんをクリアできたのが一番うれしかった」「自分が1年生の時は頼ってばかりだったのが、相手に気をつけてあげられるようになりました」と話していました。

児童はこの行事を通して、協力してやり遂げることの大切さや、自身



## つながることの 大切さを学ぶ

～修学旅行～

大和市立大和中学校

大和中学校の3年生は11月1日（火）に、総合的な学習の時間を利用して、6月に修学旅行で訪れた美浜町の名物料理「バリ丼」を作り、試食をしました。

福井県美浜町と大和中学校のつながりは、2年前の修学旅行をきっかけに始まりました。

3年生は、1年生の時から「絆」をテーマに総合的な学習



に取り組んできました。先輩達の築いた「絆」を大切にし、また、その地域に生活する人々の深い「絆」づくりを目指して、修学旅行で美浜町を訪れることにしました。生徒は民宿に2泊し、田植え、炭焼き、薪割り、地引網、船釣りなど、14の体験学習に取り組み、お客様としてではなく地元の産業をそのまま体験しました。二日目の夜には、さらに深い交流を目指し、生徒が中心となって「絆祭り」を開催しました。地元の方も200人以上集まり、ダンスの発表や綱引きなど、2時間以上にわたって楽しい時間を過ごすとともに、絆を深めることができました。

秋には修学旅行で植えたお米が無事に収穫され、大和中学校

に届きました。このお米を使って更につながりを深めることはできないかと考え、美浜町の名物料理「バリ丼」を作ろうということになりました。ご飯の上にメンチカツをのせたとてもしンプルな丼ですが、地元では有名なメニューです。苦労して植えたお米で作った「バリ丼」は格別の味でした。



つながりを更に広げる取り組みとして、グループごとに修学旅行を紹介するラジオ番組を制作しました。校内最優秀に選ばれた生徒たちが実際にFMやまもとに出演して、修学旅行の思い出や美浜町の紹介などを伝えました。

「絆」をつくる活動は、大和中学校の生徒と美浜町に暮らす人々の間で、さらに深いつながりとなり、確実に実を結んでいます。

\*「バリ丼」は、市役所食堂「アミューン」のメニューとして昨年末に登場しました。また学校給食の献立としても1月に実施されました。

# 事故の再現を見て、交通安全を考える 「スタントマンを活用した体験型交通安全教室」

大和市立鶴間中学校

1月15日(火)に、鶴間中学校で、「スタントマンを活用した体験型交通安全教室」が開催されました。主催は大和市交通安全対策協議会です。交通安全、



事故防止、自転車の運転マナー向上を目的として行われました。

はじめに熊澤校長先生よりあいさつがあり、次に大和警察署交通課より交通安全についての講話がありました。大和市では交通事故の件数が大変多いこと、そのうちの30%が自転車の関わる事故であることが伝えられました。また、自転車に乗る時のルールとして、自転車は法律上軽車両に分類されるので、基本的に車道を走ること、歩行

者優先であること、横断歩道、踏み切りの渡り方に関する事など話がありました。

次に、スタントマンによる交通事故の再現が、人形を乗せた自転車に自動車衝突する場面から始まりました。

続いて、スタントマンが自転車で走行し、その姿から生徒は6つのルール違反を探しました。それらの違反をしながら走行していると、いかに危険であるかをスタントマンが実演してくれました。

次に、大型車による交差点での巻き込み事故の説明と実演がありました。中学生3人が、普段、交差点で信号待ちをしている時の位置に立ち、そこにコーンを3つ立てました。

トラックが交差点を曲がり、コーン



を後輪が巻き込むと、会場からはどよめきが起こりました。交差点では車道の近くに止まると危ないこと、大きなトラックほど内輪差が大きいいため、必ず3歩下がって待つことが大切であることなどの説明がありました。事故の事例などの紹介もあり、生徒たちは真剣な面持ちで聞いていました。



また、自転車の事故の加害者になる可能性についても話がありました。賠償金額について高額を支払い事例の話がされると、生徒はその金額に驚きを隠せない様子でした。

感想には、「身近なところに危険がひそんでいることがよくわかりました」「実演を見て、被害者にも、加害者にもなりたくないと思ったので、交通ルールをしっかり守ろうと思います」「もし、あのとときのスタン

トマンさんが自分だったら、大切な友達や家族だったらと思うと、とても怖い気持ちになりました。これからはきちんとルールを守りたいと思います」とありました。



生徒は、交通事故実演による交通安全教室を体験して、多くの大切なことを学んでいたことがうかがえました。

## 戦争体験を聞く 語り部のお話

大和市立西鶴間小学校

西鶴間小学校では、11月18日(金)の3・4時間目に6年生

が、社会科の学習として戦争体験を聞きました。歴史学習の一環として、太平洋戦争下の様子を実際の体験者から聞くことにより、戦争当時の様子をより詳しく知ることが目的と

を目的と



して行われました。

語り部としてお話をしてくださったのは、元柳橋小学校校長の保坂治男さんです。いろいろな掲示物を使い、戦時下の大和市近辺の様子として、戦闘機を生産していた高座海軍工廠やそこで働く台湾少年工のお話をはじめ、空襲を受けた日本の様子を詳しく話してくださいました。児童はとても真剣に話を聞いていました。

児童の保坂さんに宛てたお礼の手紙の中には「戦争のつらさ、怖さ、苦しさ、大変さがよくわかりました」「どのお話も社会科の教科書には載っていないことばかりでした。今日聞いたことは忘れません」と書かれ、心に届く授業であったことがうかがえました。

## 「おらが学校」

# 大和東小の

## 取り組み

大和市立  
大和東小学校



大地の東、田畑に囲まれ豊かな自然環境に恵まれた大和東小学校。子どもたちの将来を見据え、人々とふれあい、心身ともに健やかな児童の育成を目指し様々な活動を続けています。その中から2つの取り組みを紹介します。

### 「米作り」

大和東小学校では、毎年5年生が米作りにチャレンジしています。現在米作りをしている場所は、今まで花壇だったところを改造して作り上げたものです。



今年も地域に住む農家の方に苗をわけてもらい米作りが始まりました。どろだらけになりながら代かき・田植えをしました。そろそろ収穫というところで防風ネットの支柱が倒れるほどの台風に直撃されました。これまで、順調に育った稲穂の多くが落ちてしまいました。稲刈り、脱穀、もみすり、精米という過程を経て約10キログラムのお米が収穫できました。

収穫したお米でおにぎりを作り全校に配りました。とても小さいおにぎりでしたがみんな収穫の喜びを味わうことができました。

### 「たてわり活動」

他学年との関わりを持ち、絆を深めてほしいとの願いから大和東小学校では、たてわり活動を重視しています。たてわり活動とは1年生から6年生までの児童で構成されている班で、年間を通じて遊びや諸活動を通して関わりを深めていく活動です。その取り組みを2つ紹介します。

### ● わくわくランド

「わくわくランド」は、たて

わり活動の中でもっとも大きな行事です。たてわりグループでブースを出し、そこで遊んでもらったり、ものを作ってもらったりします。リーダーや高学年が中心になり、計画を立て、低学年や中学年に教えながらブースの準備を進めて行きます。当日は、お客さんの呼び込みや作り方の説明・声かけなど自分の役割を一生懸命行い、お客さんを笑顔にしています。お店の仕事が終わると今度はお客として遊びに行きます。

### ● たてわり遊び



月に1度、30分の昼休みを利用してたてわり班で遊んでいます。リーダーが中心となり遊びの計画を立て、校庭や体育館で活動します。

その他、大なわ大会、6年生を送る会などの活動があります。

## 教育フォーラム

### 開催しました

大和市教育委員会

1月14日(土)、 「居場所としての家庭・学校・地域」をテーマに、平成23年度大和市教育フォーラムを開催しました。120人を超える参加者を迎えた開催となりました。

はじめに、「いじめ・暴力防止ポスター」の表彰を行いました。本年度より、児童生徒が充実した楽しい学校生活を送るための啓発ポスターとして募集を開始したもので

す。小学校低・中・高学年、中学校の4部門の優秀作品に選ばれた4人に、教育長より賞状が手渡されました。次に「居場所としての家庭・学校・地域」を演題に、東京成徳大学大学院心理学研究科の中野良顕特任教授にご講演いただきました。

最後に、グループ協議を行いました。保護者、地域の方、学

校関係者がそれぞれの立場から「居場所」をキーワードに、これから何ができるかを話し合いました。協議ではそれぞれの意見を書いた付箋を貼った模造紙を囲み、活発な意見交換が行われました。協議の最後に中野教授にまめとめとして、「熱心に話し合い、子どもたちのことを本気で考える大人がたくさんいることが素晴らしい。3者が集まり話し合いの場を持つことに意味がある」というお話をいただきました。



「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。気軽にお読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。